



北方資料室移動展示から（伊達市立図書館）

北方資料室40周年事業として2月に道立図書館で開催した資料展示「竹鶴政孝と北海道」。6月から道内市町村立図書館と協力して移動展示を開催しています。6月の伊達市立図書館を皮切りに、7、8月は札幌市中央図書館、9月以降も市立釧路図書館、帯広市図書館と巡回する予定です。（写真は伊達市立図書館展示コーナー）

目 次

「に れ」	1
「こどもの読書週間」関連事業	2～3
子ども向け図書館ツアー2011「すすめ！図書館ボウケン団」	
資料展「友だち100冊つくるんだ」「手島圭三郎の絵本」「全力蹴球コンサドーレ」	
事業報告 平成23年度全道図書館新任職員研修会	4
特集 東日本大震災復興支援について	5～9
東日本大震災の復興支援に関する取組状況調査について	
被災地の子どもたちに絵本を届けようプロジェクト	
東日本大震災に伴う宮城県名取市への支援について	
所蔵資料展	10
所蔵資料紹介『プランゲ文庫コレクション（雑誌・新聞）』	11
道内図書館（室）紹介「幌延町生涯学習センター図書室リニューアルオープン！」	12
掲示板	13～14

に れ

道立図書館も古くなってきましたが・・・。

北海道立図書館 副館長 佐藤 淳 司

道立図書館の建物も昭和41年の建築以来、44年が経過しました。

経年により施設全体が劣化し、いろいろな不都合が生じるのは当然のこととしても、ここ数年、所蔵資料の大敵である書庫の雨漏りが深刻です。

他府県の図書館の建築年次を調べてみましたら、平成年代の比較的新しい建物が21館、昭和50年代60年代の建物が11館、昭和30年代昭和40年代の建物はというと、北海道を含め15館あり（道立図書館は4番目に古い）、どこも老朽化や書庫の狭隘に頭を痛めており、改築を検討中の県もあるようです。

道の施設は、従前は法定耐用年数の75パーセント程度の経過で改築していましたが、平成14年度以降は、改修などで長寿命化を図り、法定耐用年数以上経過しないと改築を検討しないことが道全体の方針とされました。

道立図書館は鉄筋コンクリート造で法定耐用年数が50年であることから、あと6年間ということになりますが、果たして6年後の平成29年度から数年以内に改築が実現し、老朽化、書庫狭隘化といった施設上の課題の抜本的解決はもとより、情報拠点としての機能を更に強化できるかどうか。それは「北海道教育推進計画」の後期5年間（H25～H29）の施策に位置づけられるか否かに懸かっているのだと思います。

流れによっては、近々大規模な改修工事を行い、15年後の平成38年に迎える創設100周年の記念事業として・・・ということになってしまうかもしれません。

いずれにしてもこの議論が本格化するまでには、もうちょっと時間があるとして、現に悩まされている書庫の雨漏りについては、このたび予算が措置され、8月から対策工事を実施することにより、当面は凌げることとなりました。

さて、施設は古くなってきましたが、道立図書館ではこの6月、市町村立図書館（室）への支援や子ども読書活動への支援、さらに課題解決型レファレンス機能の充実・強化を図るために、これまでの3部8課体制を2部1室5課体制に組織機構を再編しました。



併せて事業の拡充や新設も行い、また昨年度から、国の「住民生活に光をそそぐ交付金」を活用し、約5万冊の図書購入手続きを進めており、児童書等も充実しますので、道立図書館のこれまで以上の活用をお願いいたします。

〈どんどん新刊書が入ってきています。〉

こどもの読書週間（4月23日～5月12日）関連事業

■ 子ども向け図書館ツアー2011「すすめ！図書館ボウケン団」

期日：5月5日（木）14：00～15：30

会場：1階 研修室～書庫等

5月5日のこどもの日に、子ども向け図書館ツアー「すすめ！図書館ボウケン団」のイベントを開催しました。当日は親子連れなど18名の参加がありました。

ここ数年、恒例となっている子ども向け図書館ツアーですが、当館では参加する子どもたちに、図書館のことを楽しく知ってもらおうと毎回工夫をしています。

今回は「ボウケン団」ということで、最初に行う本探しゲームに宝探しの要素を加えて、みんなで一つのパズルを完成させていく趣向を盛り込みました。

子ども達には、資料利用票とヒントを手がかりに児童書書庫から本を探し出してもらうのですが、本の中には特製しおり等の記念品がはさんであり、それを見つけた子どもへ宝物としてプレゼントしました。

また、子ども向け図書館ツアーでは、通常のツアーとは異なり、館長室や事務室を紹介しています。館長室見学では、館長用の椅子に座る体験をしてもらいました。

書庫の資料紹介でも、親の世代が子どもの頃に読んでいた雑誌や、子どもたちが生まれた頃の新聞原紙を見もらうことで、親子一緒に興味を持てるようにしました。

ツアー後のアンケートには「本を探すのが楽しかった」「いろんな本があって面白かった」等の感想が多く寄せられました。

(利用サービス部利用サービス課)



研修室でツアーの説明



第1書庫の紹介



誕生日の新聞を閲覧

■資料展「友だち100冊つくるんだ」

期日：4月1日～5月29日

会場：1階 児童コーナー

毎年、児童コーナーでは「こどもの読書週間」期間中、読書週間にちなんだ展示を行っています。

今回は、「こどもの読書週間」の標語、「友だち100冊できるかな」にちなみ、子どもの本に精通した識者おすすめの絵本や児童書を約40冊展示し、多くの利用がありました。

(利用サービス部利用サービス課)



■資料展「手島圭三郎の絵本」

期日：4月1日～5月29日

会場：中2階 北方資料展示コーナー

手島圭三郎は北海道生まれの版画家。絵本にっほん賞を受賞した「しまふくろうのみずうみ」をはじめ、「おおはくちょうのそら」「きたきつねのゆめ」等北海道の自然を舞台にした迫力ある絵本を、大型絵本を含め、展示しました。

(利用サービス部北方資料室)



(北方資料室入口横にひるがえる? コンサドーレのフラッグ)

■資料展「全力蹴球! コンサドーレ」

期日：4月1日～5月29日

会場：中2階 北方資料展示コーナー

北海道のスポーツシリーズとして、コンサドーレの地元開催に併せ、フラッグ、ユニフォーム、タオル、月刊コンサドーレ等の雑誌、図書、応援歌のCD、さらにJ1復帰を報じた新聞等を展示、子どもから大人まで楽しめる展示となりました。

(利用サービス部北方資料室)

平成23年度全道図書館新任職員研修会

公立図書館、公民館図書室等に勤務する新任職員に対し、図書館活動に必要な基本理念の理解及び基礎知識の習得を図ることを目的として実施しました。

今年度から、これまで3日間であった日程を2日間とし、受講生に対して事前事後の課題を課すことになりました。受講後のアンケートでは、「職場の人員が少ないが、日程が短くなって参加しやすくなった」「内容が濃密でよかった」という感想が寄せられました。また、休憩時間には、受講生同士が積極的にコミュニケーションを取る姿が見受けられました。

なお、今年度から修了証を発行することとし、全課程に参加した43名の受講生に授与しました。



■ 期 日：6月9日（木）～10日（金）

■ 会 場：北海道立図書館研修室

■ 参加人数：46名

■ 日 程：

【1日目】

（1日目の講義風景より） 北海道通信社提供

講 義「図書館サービスのこれから」 浦河町立図書館副館長 斎藤仁史氏

講 義「カウンターの仕事」 北海道立図書館企画支援課主査 工藤嘉一

【2日目】

講 義「道立図書館の協力サービス」 北海道立図書館企画支援課企画主幹 吉原和夏子

講 義「資料収集」 苫小牧市中央図書館司書 大垣さおり氏

講義・演習「子どもと本と人と」 砂川市図書館主任 工藤雅子氏

情報交換「“今、直面している課題”を見つけよう」 北海道立図書館資料課主査 原田英明

■ 事後課題（研修振り返りレポート）から

- ・ 図書館は成長する。その言葉が大変大きく、図書館職員が働くことで図書館は無数の可能性があるのだということを知らされた。
- ・ 困っていることや、こうしたいと思っていること、こうありたいと願っていることなどは、場所や年齢が違っても大きな違いはないのだなと感じました。
- ・ 研修を通じて得たことを、今後の図書館運営に生かし、地域とともに成長していく図書館を作っていきたいと思います。
- ・ 中堅研修には利用者や職場の人々からも頼りにされるような司書として胸を張って参加できるように、日々の経験を地道に積み重ねながら楽しむことも忘れず励んでいきたい。

（総務企画部企画支援課）

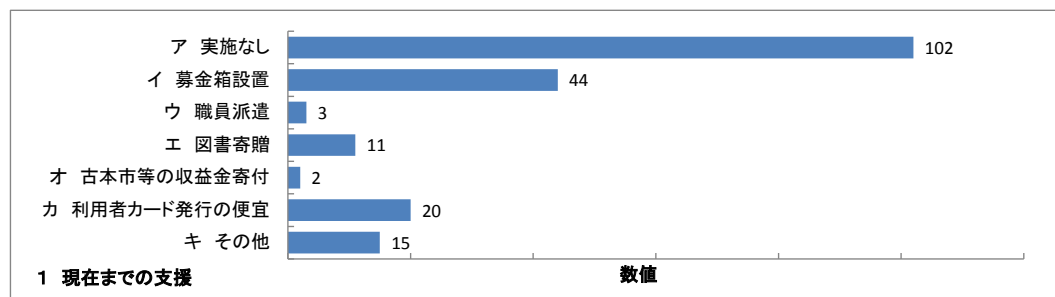
東日本大震災の復興支援に関する取組状況調査について

3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方の沿岸部を中心に、各地に未曾有の被害をもたらしました。図書館（室）においても、多数の被害を受けています。

日本図書館協会や全国公共図書館協議会等の全国機関では、被災状況や支援状況の調査を行っており、ボランティアを募って現地へ派遣するなどの動きも出ています。また、被災した美術館、図書館、文書館、公民館を支援する救済情報サイト『Save MLAK』（<http://savemlak.jp/>）が立ち上がるなど、被災館への支援は様々な方法で行われています。

そんな中、北海道でも何か支援ができないのかという声があり、北海道図書館振興協議会では、道内公共図書館（室）等の東日本大震災の復興支援に関する取り組み状況について把握するために、5月1日現在で、図書館（室）が主体となった支援について、道内179市町村に調査を依頼しました。本稿では、その回答結果の概要をご紹介します。

1 現在までの支援状況について



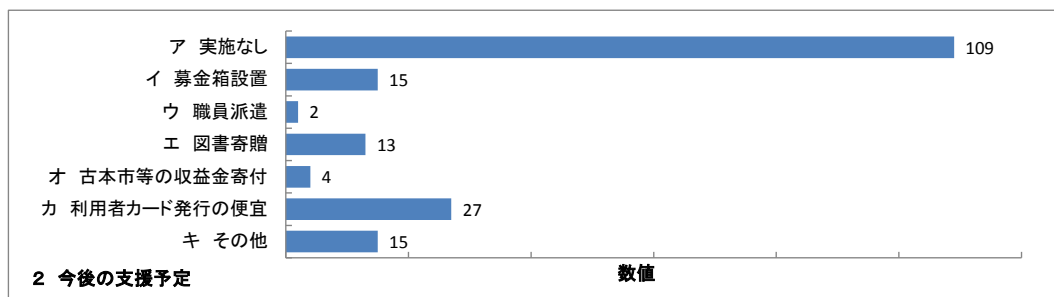
支援活動で最も多かったのは、義援金募金箱の設置です。4分の1近い44市町村が実施しています。自治体での募金活動を行う中、住民が広く集まる場所として、図書館（室）に設置されたものと思われます。次いで、利用者カード発行の便宜を20市町で実施しています。運用の中で対応できる支援であり、避難してきている方にも気軽に図書館（室）を使ってもらえることができるため、有効な支援であると考えられます。

また、職員を派遣した例としては、宮城県名取市へ図書館復興支援として職員を派遣した石狩市・北広島市、宮城県内の6市5町を移動図書館車で巡回し、集めた寄贈資料を届けた滝川市がありました。いずれも、本特集で報告を掲載していますので、あわせてご覧ください。

図書（絵本・児童書等）の寄贈は9市町が単独で実施しており、約5,300冊が被災地に送られています。この他、自治体やボランティア団体などが絵本等の寄贈資料を送っている例も4市で約19,000冊ありました。

古本市などを開催して収益金を寄付したのは2町で、ボランティア団体などが主催した例も2町ありました。

2 今後の支援予定について



支援予定で最も多いのは、利用者カード発行の便宜を図る27市町村です。すでに実施した支援項目の中で最も増えています。被災地域からの移住者が増えていくことを考慮すれば、これからさらに実施が増えていくことが予想されます。

その他、義援金募金箱を設置するのが15市町、図書（絵本・児童書等）を寄贈するのが13市町、古本市などによる収益金を寄付するのが4町村と続きます。収益金の寄付は、ボランティア団体などが主催する事業によるものも2市町あります。

なお、被災地へ職員を派遣する予定の2例については、被災地の図書館支援ではなく、自治体としての被災地復興支援のなかで、図書館職員が派遣されるものです。

全体的な傾向として、支援を実際に行っている市町村は、引き続き同様の支援を継続していくところが多いようです。

3 その他として

図書館が関わっているその他の支援活動の中で、特徴的な支援を2例紹介します。

釧路市では、市民有志が組織した『「絵本で笑顔を」被災地の子ども達支援プロジェクト』で図書館が事務局となり、市民から寄贈される絵本・児童書の受付窓口として協力しています。

苫小牧市では、市内NPO法人連合会あゆ〜む主催『被災地の子どもたちへ絵本を贈ろう！』という、絵本・児童書の寄贈を受けて被災地へ送る事業の後援を行い、図書館が届出先窓口になっています。

この他にも、首長部局やボランティア団体などが独自の支援を行っている例などがいくつか報告されています。道立図書館では、「北海道ブックシェアリング」の活動に協力し、6月7日（火）～12日（日）の6日間、図書館前庭を寄贈される図書の受付場所として提供しました。6日間で当初の予定の10倍以上である約6万冊の資料が集まりました。

北海道ブックシェアリングHP：<http://bookshare.web.fc2.com/>

4 まとめ

現在、具体的な支援の予定がない市町村の図書館（室）においても「今後支援の要請があれば対応したい」「今後支援の取組を進めていきたい」という声があります。北海道図書館振興協議会としては、日本図書館協会とも連携しながら被災地の情報収集に努め、中長期的に支援の要望を把握した上で市町村とも協力しながら、必要なときに必要な支援を行っていきたいと考えています。なお、この調査の集計結果については、後日当館HPで公表する予定です。

（北海道図書館振興協議会事務局：総務企画部企画支援課）

特 集

被災地の子どもたちに絵本を届けようプロジェクト

滝川市立図書館 事務主任 青山 格

このプロジェクトは、「プラタナス号で被災地に絵本を届けることはできないか?」と書かれた教育長からの1枚のメモからはじまりました。

準備期間も短く、本当に絵本が集まるのだろうかという不安もありましたが、報道機関や新聞販売店の協力によりPRできたことで滝川市民のみならず、市外からも協力の申し出があり、4月8日から17日までの10日間で10,000冊を超える本が集まりました。

宮城県へは、3月末で事業を廃止した移動図書館車プラタナス号とワゴン車(通称キッズブックカー)の2台、職員5名で行くこととしたところ、宮城県教育委員会から2チームに分かれてできるだけ多くの町を回ってほしいとの要望があり、4月19日から23日までの5日間で6市5町延べ15か所を訪問し、4,750冊の本を届けることができました。

行程表

		A班:キッズブックカー 壽崎・青山	B班:プラタナス号 南・村澤・大崎
4月17日	PM	市役所出発・苫小牧港発	
4月18日	AM	仙台港着	
	PM	県庁での打合後宿泊地の栗原市へ	県庁での打合後宿泊地の仙台市内へ
4月19日	AM	気仙沼市総合体育館ケー・ウエーブ ・図書寄贈(150冊)	東松島市立図書館 ・図書寄贈(1000冊)
	PM	気仙沼市立小泉中学校 ・図書寄贈(150冊)	
4月20日	AM	南三陸町立伊里前小学校 ・図書寄贈(200冊)	名取市文化会館 ・図書寄贈(30冊)
	PM	南三陸町志津川小学校 ・図書寄贈(200冊)、読み聞かせ	岩沼市民会館 ・図書寄贈(120冊)
4月21日	AM		多賀城市文化センター ・図書寄贈(200冊)
	PM	石巻市中央公民館 ・図書寄贈(200冊)	七ヶ浜町生涯学習センター ・図書寄贈(120冊)、読み聞かせ
4月22日	AM		亘理町立逢隈小学校 ・図書寄贈(300冊)
	PM	女川町総合体育館 ・図書寄贈(350冊)	山元町中央公民館 ・図書寄贈(100冊)
4月23日	AM	七ヶ浜町生涯学習センター・図書寄贈(90冊) 多賀城市立図書館・図書寄贈 (1540冊)	
	PM	仙台港発	
4月24日	AM	苫小牧港着	
	PM	図書館着	

また、4月15日には北海道を通じて宮城県へ4,000冊を送っており、残りの本も受入れ体制が整っていなかった市町に直接送ることになっています。

現地では、あまりの惨状に言葉が出ませんでした。現地の人たちと話をすると皆さんしっかりと前を向いていたことに安心しました。



また、避難所ではどこへ行っても絵本を手取る子どもたちの笑顔を見ることができました。読み聞かせを行った避難所では、「もっと読んで」とか「いっしょに遊んでよ」という子どもの声もありました。ある避難所でお会いした小学校の先生の「避難所ではテレビもゲームもなく、子どもたちは楽しいことに飢えてました。子どもたちが笑顔になる機会を作ってくれてありがとうございます。」という言葉が非常に印象的で、このプロジェクトの目的を果たせたのではないかと思います。

宮城県教育委員会に打合せに行ったときに、県立図書館は3月11日の地震により散乱した図書の整理と書架の修理等でやっと開館できるというところまで復旧したところで、4月7日の余震（震度6）により整理前と同じ状況になってしまい、5月の連休明けに開館することを目標に作業を行っているという話を聞きました。訪問先の図書館も同様の状況で、建物の安全確認ができなければ開館できないというところもありました。

後日談ですが、5月10日に女川町で女川第二小学校内に「女川ちゃっこい絵本館」がオープンしたというニュースが届きました。訪問したときは、避難所で生活している方がボランティアとして本の整理作業を行っていたのですが、ここの本棚に滝川市から持っていった本も並んでいるのですから、喜びも大きかったです。

テレビで自分が行った場所の映像を見ると、少しずつ復興が進んでいるように見えます。元の生活に戻るには長い時間がかかると思います。今回現地を訪れ、絵本を届けて終わりではなく、今後、長いスパンで支援をしなければならぬと強く感じています。

テレビで自分が行った場所の映像を見ると、少しずつ復興が進んでいるように見えます。元の生活に戻るには長い時間がかかると思います。今回現地を訪れ、絵本を届けて終わりではなく、今後、長いスパンで支援をしなければならぬと強く感じています。



特集

東日本大震災に伴う宮城県名取市への支援について

石狩市民図書館 主査 伊藤 英 司

このたびの東日本大震災により、お亡くなりになられた方々に心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々に謹んでお見舞い申し上げます。

今回の震災に対し、本市では、国あるいは全国市長会などから、被災された各自治体に支援の枠組みが示される中、本市独自の取り組みとして、子どもに対する支援ができないか検討がなされました。今回支援した宮城県名取市は、新図書館建設に関わり、昨年本市を2度視察されていること、また、海浜植物保護の活動で交流があったことから、被害状況や求められる支援内容などについて情報交換を進め、支援の実施に至ったところです。

4月11日から5月1日までの3週間にわたり、図書館職員6名、公民館職員1名、教委事務局職員1名の計8名が2つの班に分かれて訪れ、避難所における子どもたちへの読み聞かせや、支援物資の搬送、建物に大きな被害を受けた名取市図書館における本の整理などをおこないました。

震災で甚大な被害があった名取市にあって、図書館は津波の被害を免れたものの、地震により壁の一部が崩れ落ちたり、ひびが入るなど建物に大きな被害がでました。また、多くの本が床に落ち、スチール製の書架は傾いて自立できない状態にあるなど内部にも大きな被害がありましたが、幸いなことに別棟の閉架書庫には被害がありませんでした。これらの状況から、名取市図書館の当面の方向性や具体的な作業について話し合わせ、①移動図書館車と別棟の書庫を利用した臨時開館を実施、②2階にある本は全て箱詰めの上1階へ移動、の2つの方針で取り進められることになりました。

作業は、本市の支援班のほか、途中から北広島市図書館職員2名も合流し、多くの現地ボランティアの皆さんとともにおこなわれました。床に落ちている本は一度分類順に書架に戻した上で箱詰めをするなど、図書館を再開館する時のことを意識して進められました。5万冊以上の図書の移動、箱詰めは想像以上に手間がかかるものでありましたが、職員に加えてボランティアの皆さんの献身的な助力もありスムーズに進みました。

現在も復興に向け、多くの課題に取り組まれている最中であって、名取市図書館は安全のため利用者が今もって建物に入ることができません。しかし、名取市図書館職員のご努力によって、移動図書館と別棟の書庫を利用した臨時開館が5月10日から始まったとのことは嬉しい限りです。このような状況の中、1日平均140人、多い日には200人を超える利用があるとのこと。

なお、これらの取り組みの様子については石狩市民図書館のホームページに「がんばろうなとり」と題した今回の支援についての広報紙を掲載しておりますので、興味のある方はご覧ください。[\(トップページ ⇒ お知らせ・イベント情報 ⇒ 東日本大震災 被災地支援活動\)](#)



所 蔵 資 料 展

■エントランスホール展示「森を歩くー2011国際森林年ー」

期日：平成23年6月1日（水）～8月30日（火）

会場：1階 エントランスホール

2011年は国際森林年です。この国際森林年は、世界中の森林の持続可能な経営・保全の重要性に対する認識を高めることを目的としています。

我が国でも、現在取り組んでいる森林・林業再生や「美しい森林づくり推進国民運動」、途上国の森林保全等に対する国民の理解の促進につなげていくことを目的に、様々な活動が予定されています。

当館も、この国際森林年をサポートする「フォレスト・サポーターズ」に登録し、同団体がかかげる4つのアクション「森にふれよう」「木をつかおう」「森をささえよう」「森と暮らそう」にあわせたコーナーに、森林や林業などの理解を深める資料を紹介しています。

2011国際森林年 <http://iyf2011.go.jp/>

2011国際森林年（林野庁）<http://www.rinya.maff.go.jp/j/kaigai/2011iyf.html>

2011国際森林年（北海道森林管理局）<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kikaku/iyf/2011iyf.html>

フォレスト・サポーターズ <http://www.mori-zukuri.jp/contents/kokusai/>

（利用サービス部利用サービス課）



2011・国際森林年

国際森林年ロゴマーク



■北方資料室展示「北海道に のれん 100年 ～道内の会社史～」

期日：平成23年7月1日（金）～8月30日（火）

会場：中2階 北方資料展示コーナー

『〇〇会社史』『△△周年記念誌』などのいわゆる会社史は、殆どが非売品で、会社関係者や関係団体の間で頒布されることが多く、広く世に流通しないため、通常はなかなか目にすることができません。

しかし、その会社の沿革・歴史をはじめ、理念や姿勢、創業関係者の生い立ちなどを伝える貴重な資料です。また、創業の地の環境や歴史、更にはその企業が扱う商品やサービスの発達・発展を表すものであり、産業史の1ページともいえます。

図書の形にまとまっていなくとも、会社案内パンフレットはもちろん、取り扱い商品のパンフレット、チラシや商品の葉のようなものも、その会社を知る手がかりとなります。

これらのほか雑誌記事など、創業100年以上の老舗に関するさまざまな資料を集め、「今年100周年を迎える企業」「道内の会社史（記念誌）」「創業者の顔、創業初期の様子、なつかしアルバム」「道内各地の老舗あれこれ」といったコーナーに分け、紹介しています。

（利用サービス部北方資料室）



プランゲ文庫コレクション（雑誌・新聞）

北海道立図書館が平成11年度及び16年度に収集した資料「プランゲ文庫コレクション(雑誌・新聞)」を紹介します。

プランゲ文庫(The Gordon W. Prange Collection)とは、米国メリーランド大学図書館(University of Maryland Libraries)が所蔵するコレクションで、これは連合軍総司令部(GHQ)が、日本が第二次世界大戦後の占領下にあった1945～1949年に、占領政策の浸透と思想動向調査を目的に、日本国内で刊行された出版物を収集したものであり、当時修史官として資料の検閲に当たっていたメリーランド大学のプランゲ教授が、資料の価値に注目し、後に同大学に移管したものです。メリーランド大学では1962年から資料の整理を開始し、1978年には、正式にプランゲ文庫(図書約73,000冊、雑誌約13,800タイトル、新聞・通信約18,000タイトル、その他)と命名、現在は資料を一般に公開しています。

このコレクション(学級新聞のようなミニコミ紙〔誌〕も含む)には、当時の検閲状況を知る手がかりのほか、敗戦時から5年間にわたる社会状況を反映する要素も含まれており、戦後の大衆文化の諸相を現代に伝える側面、また、文化史並びに地域史研究の側面からも、研究者にとっては第一級の資料として高く評価されています。

国立国会図書館ではメリーランド大学との共同事業により、プランゲ文庫に含まれる雑誌及び新聞のマイクロ化(1993～1996)に続き、図書のうち児童書(約8,000タイトル)のマイクロ化(2006～2010)を終了し(前者は国立国会図書館憲政資料室で、また、後者は国際子ども図書館で閲覧可能)、現在は一般図書のマイクロ化の作業を進めているところです。

当館所蔵のプランゲ文庫(北海道関係分)は、雑誌が641タイトル(マイクロフィッシュ1,946シート)、新聞は1,079タイトル(マイクロフィルム599リール)です。内容的には市販雑誌(子供の国発行『ぼとん』、青玄社発行『大道』、新日本文化協会発行『北の子供』など)



の他、非売品の同人誌や各種団体誌、また、各地域で発行された地方新聞など、形態的にも活版のものから手書きやガリ版刷りと多種多様となっております。現在日本では残存しないものも多数あります。

左：当館所蔵の「ぼとん」創刊号

右：プランゲ文庫マイクロフィッシュ版

本道においては戦時期、戦災で壊滅状態となった都市圏から出版社が多数移転してきたこと、札幌を中心に戦災の被害が比較的少なかったことなど、出版活動に必要な条件が完備していた時代背景とも関連がありますが、何よりも言論統制や紙が少なかった時代から解放され、文芸や組合活動に関する出版活動が活発に道内あまねく広がり、いわゆる“本道の出版文化ブーム”が到来しました。その時期に発行された資料群を含むプランゲ文庫は、その内容の質の高さから計り知れない価値があると言えます。

(利用サービス部北方資料室)

道内図書館（室）紹介

幌延町生涯学習センター図書室リニューアルオープン！

幌延町教育委員会 主任 吉田 正亥孝

平成23年3月快晴の日、4月1日の幌延町生涯学習センターのオープンをめざし蔵書1万6千冊のお引越し作戦を開始しました。2月から通常業務の一方で、アルバイト2名が分類整理・図書館システム導入による書籍登録などの準備を進めていました。思い起こせば、図書室の移転は2度目です。市街地中心部にあった幌延町公民館が手狭になったことから、昭和63年に市街地外れの「農村環境改善センター」へ移転しました。今回、老朽化した公民館を解体し、その跡地に生涯学習センターを建設し、センター内に図書室も整備する運びとなりました。



新しい図書室は、従前の図書室と比べ2倍の約210㎡の広さを持ち、大型の天窓を設け、白を基調とした明るい空間となりました。開架冊数は2万6千冊、閲覧コーナーやDVDの視聴コーナーも余裕を持った配置となり、「お話の部屋」や「ふれあいコーナー」（各20㎡）、「幼児専用トイレ」を新設し、絵本や育児書の充実を図

りました。

また、センター建築中当初は、多目的に使うよう設計されていた多目的屋内空間を子育て支援に用途を変更し、大型遊具・ボールプール・テーブルベンチなどを設置しました。連日、子どもを連れのお母さんが来室し、絵本の読み聞かせを行ったり、子育て情報の交換に余念がありません。

オープンしてから3ヶ月が過ぎましたが、図書室が町の中心部に戻ったことや、開館時間を延長（午後5時までを午後8時まで）したことにより、それまで利用が少なかった高齢者や、勤労世代の来室者が増え、「近くて便利になった」「開館時間が延長になって利用しやすくなった」とのお声を頂いております。来室者数は2倍を超え、貸出冊数は、1.5倍に増加しました。

昭和54年から活動を開始し、「おはなしたんぽぽ」の愛称で親しまれ、子ども達に紙芝居や絵本の読み聞かせを行っていた「読書会たんぽぽ」が、会員の世代交代が進まず高齢化を理由に活動を休止して2年がたちました。子ども達から「たんぽぽのオバチャン、今日も居ないね」と聞かれると返事に困ってしまいます。何とかしなくては！ でも、大丈夫、「おはなしたんぽぽ」の読み聞かせに目を輝かせ、耳を傾けていた世代が親となり、今日も、我が子に読んであげる本を図書室で探しています。「たんぽぽ」はしっかりと綿毛を飛ばしていました。後は、上手に芽吹かせれば、タンポポの花はきっとまた咲きます。焦らずにゆっくりと...



まだまだ、配架展示方法など色々な課題が有りますが、近隣図書館・道立図書館からご助言・ご支援を受けながら、町民の皆様から愛される図書室の運営を図りたいと考えています。

掲 示 板

<貸出文庫のご案内>

当館では道内の読書活動を支援するため「貸出文庫」という事業を行っています。同じ図書10冊を1セットとして、地域の図書館（室）を通じて読書グループに貸出しており、購入のリクエストも受け付けています。

なお、貸出しは利用サービス部利用サービス課、リクエストは利用サービス部資料課が担当しています。お問い合わせ、お申込みはそれぞれ両課までご連絡ください。

平成23年度新規採用タイトル

○神様のカルテ 1. 2 夏川草介／著 小学館

○死ねばいいのに 京極夏彦／著 講談社

○人生やり直し読本 心の涸れた大人のために 柳田邦男／著 新潮社

<北海道立図書館協議会委員>

今年度の委員を紹介します。任期は平成24年10月31日までです。

氏 名	適用区分	備考	氏 名	適用区分	備考
大久保 雅 人	学校教育関係者		河 野 博 光	学識経験者	
池 内 みさを	〃		下 田 尊 久	〃	
吉 田 真 弓	社会教育関係者		北 倉 公 彦	〃	
神 野 光 男	〃	新任	後 藤 たみよ	〃 (公募)	
天 水 千 鶴	家庭教育関係者		高 田 芳	〃 〃	

6月22日付けで辞任した澤田満委員の後任として、神野光男委員が6月23日付けで就任しました。

<職員人事異動>

退 職 平成23年3月31日付け

副 館 長 武 田 和 弘

業務課主査 辰 宮 博

転 出 平成23年6月1日付け

業 務 部 長 榎 本 幸 夫 (生涯学習推進局文化・スポーツ課専門参事へ)

業 務 課 長 鈴 木 徳 光 (道立教育研究所へ)

主 任 宮 崎 敏 幸 (教育職員局教職員事務センターへ)

平成23年6月1日付け機構改正に伴い部課名が変更になったので、改めて全職員の職・氏名をお知らせします。(館外からの転入者は括弧内に旧所属等を記載)

館長	河合 正月		
副館長	佐藤 淳司 (総務政策局施設課長から転入)		
総務企画部長	高久 忠明 (教育職員局福利課主幹から転入)		
利用サービス部長	金山 聖子		
北方資料室長	鈴木 浩一		
管理課長	楠山 尚己 (生涯学習推進局生涯学習課主査(総括)から転入)		
副主幹兼主査(総括)	佐々木 孝夫		
主査	秋田 則子		
主任	高橋 聡人	高橋 優	松山 貴紘
	中山 博重	柴田 茂	
企画支援課長	宮本 浩		
企画主幹(子ども読書)	吉原 和夏子		
主査	中田 こずえ	工藤 嘉一	
主任	山本 真紀		
利用サービス課長	日暮 文行		
企画主幹(レファレンス)	加藤 ひろみ		
主査	桑原 裕子	陶久 郁子	原 美代子
	金田 幸子		
主任	今野 徹	大塚 寿信	佐々木 裕道
資料課長	佐藤 良雄		
主査	原田 英明		
主任	佐伯 基		
	松下 悦子		
	伊藤 嘉奈子		
北方資料課長	丸子 裕		
主査	一戸 泰		
	須之内 美智代		
主任	小川 靖子		
	工藤 尚子		
	西岡 祐子		

北海道立図書館報 第191号

平成23年7月29日発行

北海道立図書館長 河合 正月

〒069-0834 江別市文京台東町41番地

TEL 011-386-8521 (代表)

ダイヤルイン

386-8531 (総務企画部)

386-8522 (利用サービス部)

386-8523 (北方資料室)

FAX 011-386-6906 (利用サービス部)

388-2063 (総務企画部)

E-mail : shienka@library.pref.hokkaido.jp

H P : http://www.library.pref.hokkaido.jp